

# 地域連携の未来考える

## 東はりま甲南会報

### 号外

発行

東播磨甲南会

[事務局]

〒675-0017  
加古川市野口町良野  
365-11

行政書士澤本事務所  
澤本武司 気付

TEL 079-421-1747

FAX 079-439-2842

E-mail

sawamoto@gyosei.or.jp

### 2017年度総会の御案内

日時 ● 2017年6月3日(土) 午後5時より

会場 ● 加古川プラザホテル

## 大学、行政、メディアと活発に討議 第24回総会 初のシンポジウム開く

東播磨甲南会の第24回総会が6月4日、加古川市の加古川プラザホテルで開かれた。総会には、甲南学園、同窓会本部や各地甲南会からの来賓を含め約60人が出席。今年は初の試みとして、2019年の甲南学園100周年に向けて、ふるさととの発展と甲南の地域連携のあり方について考えようとするシンポジウムを企画した。大学と同窓会、行政、メディアのパネリストらが活発に討議し、人口減少時代のふるさと創生に向けて、互いに関わりを深めてよりよいまちを創っていくことと意見を出し合った。



地域連携について考え合ったシンポジウム

東播磨甲南会は、1992年設立。140人の会員を中心に、2013年から「地域に開かれた同窓会」を旗印に活動している。

総会では、昨年末に地域貢献活動の一環として取り組み、好評だった親子対象の「餅つき大会」など、前年度の事業・会計報告に続き、新年度の事業計画案と予算案、2018年度までの役員組織案が発表され、いずれも満場の拍手で承認された。

今年、例年、総会後に開く特別講演会に代え、「加古川市と甲南大学の地域連携」と題したシンポジウムを開催。甲南大学の佐藤泰弘地域連携センター所長を司会に、加古川市の白水伸英副市長、甲南大学の長坂悦敬(よしゆき)学長、甲南大と連携協定を結ぶ神戸新聞社の阪本浩之地域連携室長、東播磨甲南会の三宅会長が、これからの地域連携のあり方について語り合った。

冒頭、白水副市長の基調報告があり、人口減少時代を迎えて直面している諸問題を解説。「市の魅力を知ってもらい人口減に歯止めをかけた」としたうえで、「東播磨から甲南大学に500人が通っている。学生のまちづくりへの参画を進め、企業との協働で課題解決や、学生の就活支援を図りたい」と語った。

続いて、長坂学長も基調報告で、「2019年の学園100周年に向け、甲南伝統の人物教育重視を基本に、学生のリーダーシップ(つなげる)、共働互助(つながる)の力を養いたい。そのビジョン達成へ、本山・岡本地区、加古川市や神戸新聞社などの連携を進め、学生の活力を地域に生かしていきたい」と述べた。

パネル討議では、阪本室長が地元紙として、一方的な情報提供だけでなく、地域課題とともに解決していく取り組みを始めたことを紹介。「地域課題の解決のために、新聞社の取材力、情報発信力を、大学、行政、



東播磨の地域連携を語り合った(右から)白水副市長、長坂学長、阪本室長、三宅会長

地元企業の力と結び付けていきたい」と話した。また、白水副市長は「学生のアイデアをまちづくりに生かしていきたい」とさまざまな連携に期待を寄せ、長坂学長が「甲南の100年、加古川市の市制と、互いに長年培った潜在力がある。連携を高らかにうたうことにより、目標がかたちになっていくだろう」と応えた。

三宅会長は「加古川市には甲南OBが理事長を務める兵庫大学もある。同窓会として、この絆をしっかりと育み、甲南の枠を超え、加古川市の枠を超えて東播磨の地に広げ、地域の人にも喜んでもらえる活動をしていきたい」と宣言。最後に佐藤所長が「加古川市での取り組みがモデルとなり、他の地域にも広く根付いていくよう取り組んでいきたい」と述べ、予定時間を超える白熱した討議を締めくくった。

討議後の懇親会では、3年後の甲南学園創立100周年に向けた学園の取り組みとともに、記念事業の募金への協力を呼び掛ける片山勉・学園副理事長(S44経)の音頭で乾杯。新会員の紹介をはじめ、約一時間半にわたる懇親のひとときを楽しんだ。



学校法人 甲南学園  
理事長  
吉沢 英成

このところたてつづけに甲南大学と加古川市とのあいだで連携した行事が行われ関係が深まっています。岡田康裕市長様にもご来学ご講演いただきました。白水伸英副市長様を交えてのシンポジウムも盛会でした。

東播磨甲南会の長年の念願がこの関係を成り立たせてくれました。もちろん、そこには長年にわたって地元から



加古川市長  
岡田 康裕

東播磨甲南会の皆様におかれましては、平素より加古川市をはじめとする東播磨地域にて、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

現在、地方自治体はその役割が拡大する一方で、厳しい地方財政、少子高齢化など多くの課題を抱えております。加古川市においても、これらの課題を解決しながら、今後も活力と魅力あふれる地域社会を創造し、加古川市に



神戸新聞社  
代表取締役社長  
高士 薫

新聞社には報道を通じて地域の課題を「指摘」する使命がありますが、そうした課題の「解決」についても地域の皆さんと一緒に汗を流すべきだと考え、2015年3月、「もつといっしょに」を基本理念に「地域パートナー宣言」を発表し、神戸新聞パートナーセンターを開設しました。地元大学、企業、自治体などと連携することで、地域の

### 「東播磨甲南会の皆さまへ」

数多くの学生が甲南の学び舎の扉を叩いてきてくれているという基盤があるからこそです。江戸中期の謹厳実直で知られる儒学者荻生徂徠がこんなことを言っています。「在所の家作は「幾日もかかっているが、都会では「例のせわしなき風俗にて急に建つる」ゆえ脆いことが多い」と言い得て妙であります。

東播磨甲南会の会員の皆さま、日頃から母校甲南大学に想いを馳せていただけでなく、こうした地元自治体とのつながりがもてました。ありがとうございます。この場を借りて恐縮ですが、甲南100周年記念の募金活動にご協力賜りますよう、合わせてお願いいたします。これまでの100年、飛翔する「甲南100年のツバサ」を象る「バツジ」が皆様の胸もとに早くまいりたいと皆様の募金参加を強く願っております。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

### 「甲南大学との連携に期待すること」

住む全ての人が将来にわたって幸せと希望を感じることができるとまじまじと進めていくためには、既成概念にとらわれることなく、市民や事業者、行政など、多様な主体が一体となって取り組んでいく必要があります。このような中、東播磨甲南会様との縁で始まった甲南大学様と加古川市との連携が歩み始めました。豊富な人材・情報・技術などを有する甲南大学様との連携には、地域が抱える様々な課題に対し、学生の専門知識や斬新なアイデアを活用することで、課題の解決や地域の活性化へ大きな可能性があると捉えています。

さらには、学生が地域住民とのふれあいや、地域での活動を継続的に行うことにより、加古川市というまちを知り、加古川市に対する愛着心を育み、市外在住の学生に対しては「住んでみたい」、また、市内在住の学生に対しては「住み続けたい」と感じていただくことを期待しています。

結びになりますが、東播磨甲南会の皆様におかれましては、今後ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、協働によるまちづくりを引き続きご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

### 「東播磨で手を携えて」

課題をとらえ、発信し、解決していくという取り組みです。そこで必要となるのが大学の「知」です。甲南大学との連携で、さまざまな課題解決により深く進むことができますようになると考えます。また、学生の皆さんが将来グローバルに活躍するために、故郷を愛し、誇りとするローカルの根が強くなければならぬでしょう。神戸新聞社が学生に地元の話題を提供することで、地域への理解を深めていただきたいと思います。そして、新聞とともにある暮らしの中で、物事の本質を見抜く力を養い、社会に出て活躍して

ほしいと願います。これらの取り組みに、東播磨甲南会の皆さんの力が加わるのは本当に心強いことです。私も記者として加古川、高砂の地に赴任した経験があります。幾多の偉人を輩出してきた歴史、人々の懐深さなど、地域の持つ力に魅了されたのを思い出します。そのような地に暮らす同窓生の皆さんの母校愛、地域愛、そして奉仕愛が、この地域連携にもたらす広がりご期待を抱きつつ、手を携えて取り組んでまいりたいと思えます。



東播磨甲南会  
会長  
三宅 隆宏

### 「同窓生の使命」

甲南大学×加古川市×神戸新聞社×東播磨甲南会。素敵な4つのつながりが出来上がりしました。

甲南大学学長、加古川市長、神戸新聞社社長の三者が、郷土の未来に熱く燃えていらつしやるのに、私も東播磨甲南会も地元のために燃えないわけにはいきません。同窓生として母校に何ができるのか、ふるさと東播磨の地域にどんな貢献ができるのか、甲南で学び、地域に根ざす私どもはどうあるべきか。これまで悶々としながら答え探しをしておりましたが、このたびの連携実現で、霧が

晴れた気がします。今こそ平生三郎先生の教えを胸に、この東播磨から、同窓生が参加する地域連携の有るべき姿を示せるような活動をして参りたいと思えます。

### 新会員紹介 (敬称略)

- 村尾 満希 (S53 文)
- 池嶋 正昭 (S58 営) オークラ輸送機 (株)
- 堤 弘之 (S60 理) (株)モビルン設立準備室
- 三宅 聡 (S62 理) オークラ輸送機 (株)
- 橋本 生恵 (H01 営) 気圧法認定者
- 松林 勲 (H10 理) ブルデンシャル生命保険 (株)
- 郷 宏樹 (H13 経) オークラサービス (株)
- 宮本 了介 (H14 経) 味季料理りんどう
- 津田 裕昭 (H20 法) ジブラルタ生命保険 (株)

### ゴルフ大会参加者募集

恒例のゴルフ大会を、今年も開催します。ゴルフ場数で全国一を誇る兵庫県。とりわけ播磨地域には美しいコースが多数あります。そんな「ゴルフどころ」で、いっしょにプレーを楽しみませんか。

日時：2016年11月16日(水) 9:03 スタート予定  
場所：小野ゴルフ倶楽部 (小野市)  
会費：21,370円 (プレーフィー、懇親会費含む)  
申込先：090-5058-4815 sawamoto@gyosei.or.jp  
(澤本武司・H6 理)  
※10月31日締め切り

